

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

ウロがフィリピ書において突出して「喜び」を強調していることが分かります。今日の聖書箇所（フィリピ4:4）もまた「常に喜びなさい」と勧めた直後に、「重ねて言います。喜びなさい」と畳みかけるように「喜び」を強調しています。この箇所をギリシャ語の語順に従って直訳すると、「喜べ、主において、常に。再び、わたしは言おう、喜べ」となります。このようにヴィヴィッドに——しかもギリシャ語ではテンポ良く——喜びが強調されているのですが、しかもフィリピ4:4の構文は「喜びなさい」という勧めで始まり、「喜びなさい」という同じ勧めで締め括られていますので、修辭的にも「喜び」が強調されていることが窺われるのです。

では、なぜパウロはフィリピ書でこれほどまでに「喜び」を強調しているのでしょうか。それはこの手紙を書いたときのパウロが置かれていた境遇と関係します。パウロは50年代後半にエルサレムでキリスト教を宣教した廉で逮捕され、ローマの駐屯地カイサリアで2年にわたる獄中生活を送った後、ローマで拘禁状態に置かれていました。そこでパウロはローマ皇帝の裁判を待っていたのですが、処刑死が現実味を帯びている最中にフィリピ書を著したのです。「喜びの手紙」は「喜び」とは対極の「悲しみ」の直中で書かれたのです。フィリピの教会の人たちもその状況を誰よりも良く知っていました。「喜びの手紙」は「悲しみの手紙」になって然るべきだったのかもしれませんが、苦しいからこそ、パウロは「喜び」をいっそう強調することで、フィリピの教会の人たちに「苦しいときにこそ前を」向くように諭し、同時に自分自身も励ましていたのではないのでしょうか。

コロナとウクライナ戦争によって塞ぎ込む毎日が続いています。このような大変なときだからこそ、家にひとりであるのではなく、顔を上げて、少しだけ前を向いてみてください。大学はみなさんをお待ちしています。

【ウクライナ募金の報告】

すでに総務課から報告がありましたように、生徒、学生、教職員のみなさんのご協力により、ウクライナ支援募金が無事終了しました。集計の結果、募金額は、72,021円でした。募金は以下の2箇所に送る予定です。

- ・日本赤十字社「ウクライナ人道危機救援金」
- ・日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」

みなさん、募金にご協力くださりまことにありがとうございました。

【次回の大学礼拝】2022年6月14日（火）10時40分

聖書 フィリピの信徒への手紙4章5節

奨励 「公正な生き方を貫く」小林昭博先生（宗教主任）

【大学礼拝週報】2022年度 第8号（前学期第8号）

2022年6月7日（火）午前10時40分

リモート礼拝（酪農学園大学 黒澤記念講堂）

《大学礼拝》

〈礼拝動画の配信〉

前 奏

讃美歌 讃美歌 130番（よろこべや、たたえよや）

聖 書 フィリピの信徒への手紙4章4節

奨 励 「苦しいときにこそ前を」 小林昭博先生（宗教主任）

祈 り

讃美歌 讃美歌 202番（奇しきみすがた あおぎつつ）

報 告

後 奏

【本日の聖書】フィリピの信徒への手紙4章4節

4主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。

【メッセージ】「苦しいときにこそ前を」

まずは真正パウロ7書簡における動詞 $\chi\alpha\iota\rho\omega$ （カイロー「喜ぶ」）と名詞 $\chi\alpha\rho\acute{\alpha}$ （カーラ「喜び」）の使用頻度を示します。

書簡名	章数	$\chi\alpha\iota\rho\omega$	$\chi\alpha\rho\acute{\alpha}$	合計	1章ごとの使用回数
ローマ書	16章	4回	3回	7回	0.4375回
Iコリント書	16章	4回	0回	4回	0.25回
IIコリント書	13章	8回	5回	13回	1回
ガラテヤ書	6章	0回	1回	1回	0.1667回
フィリピ書	4章	9回	5回	14回	3.5回
Iテサロニケ書	5章	2回	4回	6回	1.2回
フィレモン書	1章	0回	1回	1回	1回

これまでフィリピ書が「喜びの手紙」と呼ばれていることを繰り返し伝えてきましたが、 $\chi\alpha\iota\rho\omega$ と $\chi\alpha\rho\acute{\alpha}$ の使用頻度からも、他の手紙に比べて、パ